

令和2年度 波佐見高等学校 学校評価結果【教職員】

No	項目	R2
1 教育目標、学校経営柱「陶芸教育」		
1	教育方針・努力目標を明確に打ち出し、教職員が意識して教育活動を実践する。	3.2
2	各分掌、学年で目標達成の評価を行い、その後の教育活動に生かす。	3.1
3	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、目標達成のために学年で計画的に教育活動を展開する。	3.3
4	学年目標に沿って学級の実態に合わせて学級目標を設定し、学級経営を行う。	3.1
5	容儀指導は保護者と連携して組織的・計画的に粘り強く取り組む。重点指導期間を設け改善を図る。	3.0
6	陶芸教育を通し、創造性・感性を養い、地域の歴史や産業等に興味を抱かせ、社会的視野を広げ認識を深める。	3.4
7	学年別に陶芸教育を計画的に行い、地域の陶芸に係る文化・産業の理解を深めさせる。	3.4
2 わかる授業・満足感のある授業（学習指導、自らの学び）		
8	生徒個々の学力や適性を把握し、分かる授業を展開する。	3.1
9	課題・小テストの処理は迅速にし、生徒が確実に仕上げるまで粘り強く指導する。	3.1
10	学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着・向上を図る。	2.6
11	生徒の実態に応じた指導方法や指導形態を研究するなど授業の創意工夫に努める。	3.1
12	評価基準を教師間で検討し、考査以外の観点も加味し、生徒を多角的に評価する。	3.2
3 キャリア教育、資格取得（進路指導）		
13	模試・検定等で数値目標を掲げ、その達成に向けて計画的・組織的に取り組む。	2.8
14	インターンシップを効果的に実施して、進路意識を高め、進路実現につなげる。	3.4
15	1年間あるいは3年間を見通した計画的な進路指導を組織的に行う。	2.8
4 豊かな社会性：規範意識（生徒指導）		
16	グリーンカードを効果的に活用する。	2.5
17	外部からの苦情には迅速適切に対応する。	3.6
18	生徒心得を十分に理解させ、問題行動の未然防止及び事後指導に努める。	2.9
5 豊かな社会性：自ら行動する意欲や能力（生徒会・部活動）		
19	年間計画に基づいて、事前準備を十分に行い、活発なHR活動を展開する。	3.1
20	生徒の自発性・自主性が発揮され、活発な生徒会活動を展開する。	3.1
21	生徒の実態に応じた効果的な学校行事を行う。	3.2
22	朝読書の時間を効果的に活用し、知識の拡大、教養の深化、豊かな人間性の育成を図る。	3.1
23	積極的に部活動に参加させ、学習との両立に努めさせる。	2.6
6 豊かな社会性（教育相談、人権）		
24	緊密かつ定期的な情報交換により、教育相談体制の充実を図る。	3.5
25	学校不適応が危惧される生徒へ、保護者と連携して早めに対応・指導し、状況改善に努める。	3.2
26	養護教諭・担任・分掌等の連携を密にし、心身の共に健康で健全な生徒の育成に努める。	3.4
27	外部講師による研修等により、問題を抱えた生徒への対応力向上を図る。	3.2
28	地域の人材を活用した講演等を開催して、他者を思いやり、命を大切にする態度の育成を図る。	3.1
29	人権を尊重し、豊かな心を育む視点で教育を展開し、人権課題解決を目指す態度を養う。	3.1

7 教育環境について		
30	現場指導により清掃活動の徹底を図る。	3.0
31	安全確保について生徒の意識を高めると共に校内の危機管理体制を整備する。	3.2
32	全校生徒・全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.0
33	施設・設備の充実を図ると共に危険箇所等 については、早期発見と補修に努める。	3.3
34	PCによる校務処理を推進し、校務事務支援システム及び県教育情報ネットワークを効果的に運用する。	3.3
35	空調・照明・OA機器に係る節電及び節水に学校全体で取り組む。	3.0
8 開かれた学校づくり（PTA活動、情報発信）		
36	陶芸教育の教育内容や市民展・県展などの入選結果をHP等を通して広報する。	3.7
37	生徒の状況について、学校と保護者が緊密に連絡を取り、連携を図る。	3.3
38	P T A活動に積極的に協力・参加して、P T A活動を支援する。	2.7
39	HPや波高通信などを通じて情報を地域や関係機関にタイムリーに提供する。	3.3
40	近隣の高校・中学校との情報交換や連携に努める。	3.0
41	積極的に外部講師を招いて講演や講座を開催し、教育効果を高める。	3.0
9 特色ある教育活動		
42	普通科、商業科、美術・工芸科の教育目標の実現に向けて、特色ある教育課程を編成する。	3.1
43	作品展に積極的に参加し、実績を積み重ねることで魅力ある教育活動の実践に努める。	3.8
44	美術・工芸科の教育内容の充実に努め、その広報に尽力する。	3.7
10 笑顔と活力漲る職場づくり（業務改善、連携体制）		
45	行事や業務の見直しや改善を通して、業務の効率化と縮減を図る。	3.1
46	業務の平準化を図り、併せて分掌、学年、教科で協力・支援体制を構築する。	3.0
47	前年度の分掌・学年の課題を確認し、その課題解決のために努力する。	3.1
48	学校全体の校務が円滑に推進できるよう、学年や分掌間相互の連携を図る。	3.1
49	各委員会での話し合いの結果を、教育活動及び学校運営等に生かす。	3.2
11 教員の資質向上 ※教育活動全般		
50	今日的な課題を始め、将来起こり得る問題点等について積極的に研修を行う。	2.9
51	公開授業の実施等で指導力の向上を図る。	2.8
52	教育センター等の公的な研修や研究大会に積極的に参加して、資質向上に努める。	2.6
53	学校はコンプライアンス遵守に取り組んでいる。	3.6
54	自分はコンプライアンス遵守に務めている。	3.6
12 その他 ※ICT教育		
55	学校はI C T教育に積極的に取り組んでいる。	3.2
56	自分はI C T教育を積極的に取り入れている。	3.1
57	学校はI C T教育の設備の充実に努めている。	3.2
58	I C T教育に生徒は積極的に取り組んでいる。	3.0
59	I C T教育により生徒の理解が深まった。	3.1

※PTA活動や研修等、コロナの影響を受けた項目あり。